



水の宅急便

urakawa satoko

浦川 聡子 句集

ふらんす堂

VII
水の宅急便

銀河濃し水の宅急便届く

あかときの空の隙間よ法師蟬

3
分
間
写
真
出
て
く
る
星
月
夜

朝
顔
や
塀
の
中
よ
り
馬
蹄
音

アンモナイトの渦の芯より秋立ちぬ

ビタミンの糖衣重たき晩夏かな

野分後の流るる雲に見とれをり

半分は雲の中なる大花火

円卓に置かれし忘れ扇かな

実が鳴りて月明の桐ありにけり

赤
蜻
蛉
原
子
炉
2
号
機
停
止
せ
り

銀
の
笛
吹
く
く
ち
び
る
や
月
の
中

鳥影の近づいて来る厄日かな

うつくしき真空放電野分あと

捨てられぬ木の実傍聴席にをり

バイク置く金木犀の香の中に

木の
実一つ
渡されて
みる
別れかな

雁渡し
赤き
ベンチの
端に
坐し

もみぢ一片チエリストの譜面台

黄落やN A S Aの画像の滲み出す

飾り棚磨かれてゐる椿の実

校庭の白線消ゆる冬隣

父呼んでをり菊の闇ふくらみぬ

鳥籠に月を容れたる御空かな

酉の市

もちの木にテントの張られ酉の市

二の酉の熊手夜空へせり出せり

キャラクターを打ち落としけり酉の市

電球の影の膨らむ熊手かな

ときどきは月を見てゐる酉の市

酉の市祭りの中の昏さかな

荒星や白菜の束トラックに

雪の闇C3出口より帰る

寒の地下道突つ切るチエロを横抱きに

ピアノノ弾き終へし指先冬菜洗ふ

破魔矢買ふ睫毛の長き妹よ

手袋を拾ひたる間も雪降り

冬の日の残像にわが左心室

トロンボーン吊るされてゐる冬銀河

初芝居 二句

黒衣来て門抱へゆく初歌舞伎

回りゆく舞台の上の火鉢かな

白梅や大きな絵馬をうらがへす

涸川に全き鷺のありにけり

眞鍋呉夫先生 四句

石 齧 玉 流 れ て み た る 鬼 子 母 神

大 公 孫 樹 の 根 元 の 洞 芽 吹 き 初 む

春浅き石榴のいろの飴買へり

雪女の帰りし空よ桜の芽

4 B で描く白菜の断面図

一日の終はり水鳥はなやかに



句集 水の宅急便

発行——二〇〇二年九月二五日

著者——浦川聡子◎

発行人——山岡喜美子

発行所——ふらんす堂

〒182-0002 東京都調布市仙川町一―九―六―一―二〇二

電話——〇三(三三三三六) 九〇六一 FAX〇三(三三三三六) 六九一九

ホームページ <http://www.ifnet.or.jp/~Fragie> E-mail fragie@apple.ifnet.or.jp

振替——〇〇一七〇—一—一八四—七三

装幀——君嶋真理子

印刷所——トヨ社

製本所——並木製本

定価——本体二四〇〇円＋税

ISBN4-89402-510-8 C0092 ¥2400E